

## 中教審「質の高い教師の確保特別部会」審議まとめ

### に対する執行委員長見解

5月13日、中教審「質の高い教師の確保特別部会」は、「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（審議のまとめ）」を公表した。

「審議のまとめ」では、教師を取り巻く環境整備の基本的な方向性として、①学校における働き方改革の更なる加速化、②教師の処遇改善、③学校の指導・運営体制の充実を一体的・総合的に推進するとしている。

2019年の「学校における働き方改革答申」を踏まえた取り組み状況では、「学校・教師が担う業務に係る3分類」の策定や、「教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」の策定を掲げたが、どちらも学校現場では改善されていない。

教師の処遇改善の必要性としては、教職調整額を現在の4%を少なくとも10%以上とするとしているが、現在の時間外労働に見合う額ではなく、そもそも、長時間労働の解消に向けた方策になっていない。

また、教諭と首席・指導教諭の間に新たな級を創設することや学級担任への手当支給は、教員間の分断を凶るものであり看過できない。

市教組は、これまでから教職員の長時間労働の解消には、教職員定数の抜本的改善が必要であると訴えてきた。また、教員の時間外勤務については、現在の給特法を廃止して時間外手当を支給するべきである。

市教組は、日教組・大阪教組に結集し、学校現場における長時間労働解消のための教職員の大幅な増員、教育予算の増額、学習指導要領の大幅な削減、給特法の廃止と時間外手当の支給を求めて取り組みをすすめる。

2024年 5月21日

大阪市教職員組合

執行委員長 松岡 誠